

然るに乍然と引出一多ひ可らず六月分を見此は却て之處入日拂衣不甚遠事。於十九百六拾圓八拾八錢、即ち積入の多かり一明外と示せ。

一方生活困難の爲め貿屋の質入にて在宅中の家人より有りて見ても、寧ろ萬永田送船所籍三十六十人を爲す。時各自百圓以上三百圓の借金を負ひ更に小兒の赤衣追古質入歩たり。比較する時、之日何意跡すか。即ち我工場従業員の生活上次之困難非立草を説明一得て余り云々との言ふ事無しを得ず。

歐洲戰亂當時「黃金の雨降る因島」と呼ル此時代は彼等聯工一月平均三百圓を下す。聯工數一万、土生町も其當時村主一人口三万余、一躍市制を施し人勢を示し、昼夜の分ちなく歌舞音曲の音絶えず。戰前見たり。彼等の腰間は或は脱き、金色の時計を着け、ト力一个の如く走り且つ柔々着物は彼等及び婦女子の隆々たる筋骨逞々、身体を蓋へる非らず也。

今や經濟界は一變して悲況の底ト沈淪しつゝある。時未だ彼等の脳裡より昔日の管弦樂器の迷夢は消へやらむ。

果た彼等が己が子女の将来を思ひ、況よ當時は於て其計を立つばかり。彼等が昔の榮華を此不況時と繰返さんとする終清界の大勢は、法則の運び悲況へと進行しつゝある時也。今や舉國一致、勞資兩者の大奮闘を以て此難關を突破し可矣。秋の際、會社は積み重ねの意を介せずと称し、然ちに欲を吸つて、一家全休石を噛み付けて、要求を貫徹すと言ふ。實恐るべく彼等の意氣ならず也。

以上述べ一鷹毛以て見る。要人は彼等はハシの問題の非か。又罷業の爲めの西鉄業者過かざらむ。同情を得んが爲め道具として可憐なる児童を其褐中より入るに加え、我國勞働運動史上嘗て其の例を見たる彼等の行動は今後より前例を作り、实は國民教育上又由々敷障害を殘さざるを憂シムナリナリ。

以上如く爭議は益々紛糾し、何等解決の曙光を見へるに似て、止むなく船底鐵板取外され、今日迄其解決を待ち、修繕船ジャバ丸の修繕に全力を尽す爲め、大阪より鐵工請負業者加悦組三十名來島也。同朝庶務課長山崎政男氏より昨日上阪中、
、屬帰島セリ。